

やすらぎ

特養住民
佐々木アキノ筆

第10号

発行 平成12年12月25日

社会福祉法人やすらぎ会

編集 広報委員会



練習の成果発揮！堂々の3位入賞

〈県南ブロック輪なげ大会から帰園したぶなの園選抜メンバー〉

- ◆特別養護老人ホームぶなの園
- ◆沢内村デイサービスセンター
- ◆沢内村在宅介護支援センター
- ◆ホームヘルプサービス事業
- ◆西和賀介護相談室

沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園

沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388

安心できる生活を 一日も早く

疥癬^{かいせん}集団感染の経過報告

一〇月二八日、特養住民四名が皮膚科専門医を受診し、疥癬であると診断されたから、ぶなの園は急激に緊迫した事態となりました。

過去にも、疥癬治療中にぶなの園での生活を始められた方が数名おられますが、事前に準備、対応がなされ、早期治癒に至っておりませんでした。しかし今回の場合は、発生原因が不明であり、短期間のうちに感染した疑いのある方が二〇数名にも及び、介護、看護職員のケアと対応は困難を要する結果となりました。専門医の指導と注意事項をもと

に、老人施設での疥癬集団発生に関する対応マニュアルを作成し、全職員が一丸となって感染者の治療、感染予防に向けて取り組んでまいりました。

まず第一に感染された住民の居室を変更させていただき、移動後居室の殺虫、消毒を行いました。そして、入浴には疥癬に有効な六一〇ハップという薬液を使用し、入浴後は全身に軟膏を塗布します。また、着用した衣類は、五〇度のお湯に一〇分間浸して(熱湯消毒)から洗濯するようにしました。

寝具カバー、シーツの交換は二週間毎日行い、感染予防として職員はもちろん、面会の方にも予防衣、マスク等を使用していただきました。

施設内の手すり、車イスなど直接手に触れるものはすべて消毒し、全住民、全職員が感染しているものと想定して、手洗いや手指消毒の敢行など、徹底して行なってきました。

ご家族への対応としては、一〇月二八日の時点で疥癬と診断された方、及び感染の疑いのある



寝具カバーとシーツを交換する寮母

る方については、三〇日にご家族にぶなの園へお集まりいただき、経過の説明とお詫びをさせていただきます。それ以外の方のご家族へは、十一月二日の家族懇談会にて説明、お詫びさせていただきます。

しかし、このような状況での職員の行動に対し、一部の特養住民の中で感染している方への理解不足や、これまでの生活が

一変してしまったことへの不安等で新たな問題が生じるなど、集団生活での対応の難しさを痛感しました。

発生から約一ヵ月たち、十一月二三日に専門医に診ていただいた結果は、驚異的な早さで改善傾向にあるといううれしい診断でした。職員一同、努力が報われていることに安堵はしたものの、住民全員が完治するまでは気を抜かず、一日も早くもとの生活に戻れるように努力しなければなりません。

私どもはこのことで、清潔、不潔の重要性をさらに認識し、今後ショートステイ、特養を初めて利用される方には、六一〇ハップ浴を最初の一週間実施させていただきますこととしました。

〈寮父母 一同〉

疥癬^{かいせん}ってどんな病気?

疥癬とは、ダニの一種であるヒゼンダニが皮膚に寄生して起こります。大きさは雌の成虫で

〇、四ミリくらいです。感染の経路は、直接皮膚に接触して起こる場合と、衣類、寝

具等を介する場合とがあり、身体から離れたダニは、環境の温度が五〇度になると一〇分で死滅します。

感染後の潜伏期間は二〜四週間。発症すると基本的には激しいかゆみを起こし、かゆみは夜間特に激しく、ボリボリ掻いてしまうためにその跡があちこちにできます。

手や指には数ミリ〜数センチの線のような発疹が見られるようになります。これは「疥癬トンネル」と呼ばれ、ダニが皮膚の下を移動したもので、産卵の場でもあります。陰部や臀部、腋の下などにてできる紫紅色の半球状のしこりも、ダニの産卵の場です。

その他には、身体のあちこちに粟粒から米粒ほどの大きさの紅色の盛り上がり(丘疹)がでますが、これはダニの排泄物、脱皮などに対するアレルギー反応とされています。手指の側面には水疱、膿疱(水や膿をもったブツブツ)もたくさんできます。

診断は、疥癬トンネルなどの

特徴的な皮疹を見つけないことと医師により疥癬トンネルや水疱からダニ自体やその卵を検出することでつけられます。

治療としては、現在住民の体力、皮膚の状態に依り、六一〇ハップ入浴や清拭、オイラックス軟膏の全身塗布(皮膚、あるいは角質層内のどこにいたとしても塗り残しがある)と再燃の可能性があるため)を行なっています。

疥癬は、典型的な経過をとる以外は診断が難しく、高齢の方が集団で生活する場である施設等では、いつ、どこから、どのように持ち込まれるかわかりません。ある資料によると、平成八年に首都圏四都県の特別養護老人ホームに対して行われたアンケート調査で、回答した施設の約八〇%が過去に疥癬の集団感染を経験しているとのことでした。

生命に危険が及ぶ疾患ではないのですが、住民やご家族の皆様が身体的、精神的苦痛ははかり知れないものがあるかと思われ

今後も専門医、嘱託医と連携を取りながら、一層治療に力を入れて参ります。

〈看護婦 清水直子〉

心より

お詫び申し上げます

ぶなの園施設長 上野米子

疥癬の発症、私ども職員の対応、そして疥癬がどのようなものであるかは、おおよそご理解いただけたかと思えます。

しかし、特養住民への対応を中心に、住民と職員の感染予防に神経がいきすぎ、感染された住民以外のご家族へのご連絡が十一月二日の家族懇談会となりましたことを、心からお詫び申し上げます。

また、ボランティアの方々にも、即ご連絡できず、申し訳ございませんでした。

完治するにはまだ時間が必要ですが、お正月にはご家族も安心されて、ご自宅に帰省してのお正月や職員との新年を迎えられればと願っております。

新しい住民ご紹介

平成二二年九月〜十一月 特養新入居者

(二〇月入居)



太田 泉カツヨさん (86歳)

(二〇月入居)



大野 大島キヨさん (89歳)

(二〇月入居)



新町 木村繁雄さん (76歳)

(二一月入居)



湯田町 岩井川トミさん (76歳)

(年齢は十一月末日現在) よろしくお願いたします

介護の苦勞も笑い話に

家族介護者教室開催

今年度一回目と二回目の家族介護者教室を、一月二八日と二月一日に、村内の地区を大きく二つに分けて開催しました。テーマは「家族介護者から学ぶ」。在宅でご家族の介護をされている方、あるいは以前介護をされていた方に介護の体験談を発表していただき、参加者の皆さんで介護についてさまざまな意見交換をしながら、お互いに学び合おうというのがねらいです。

このような趣旨であることから、普段在宅介護支援センターが地域の高齢者の状況を把握する際に随時情報の交換をし、ご協力いただいている民生委員の皆さん、相談協力員の皆さんにもご案内をし、多数ご参加いただきました。

また、保健婦長をはじめ保健婦の方々には、発表者をどなたにお願いするかなど企画の段階

からご協力いただき、当日もご参加いただきました。

会場は、一月二八日が太田以南の地区の方を対象に前郷のきらめきホールで、二月一日は猿橋以北の地区の方を対象に高下公民館で行い、合わせて三名の介護者の方の参加がありました。

発表は両会場で二名ずつ、四名の方（太田・久保キエさん、新町・木村幸子さん、大荒沢・佐々木米子さん、貝沢・久保洋子さん）をお願いし、それぞれご自分の介護体験や考えについて飾らずにお話してくださいました。

介護のしかたや考え方は家庭によってさまざまですが、共通することはやはり、介護される本人の気持ちになることが大



同じ介護者として興味深く耳を傾ける参加者の皆さん

切である、ということ。また、自分の育った環境が何世代も同居している大家族で、幼い頃から家族の介護というものを目にしてきたため、嫁ぎ先でも抵抗を感じることもなく介護を行なっている、というお話もありました。

発表の後は、参加者が三つのグループに分かれ、発表を聞いたの感想やそれぞれのご家庭の状況等を話し合いました。介護者の皆さんは、いろいろな苦勞

も笑い話にしてしまう明るさがあり、非常になごやかな雰囲気での話し合いました。

大野地区の相談協力員を務めていただいている石川輝子さんは、参加されたの感想として、「自分はまだ介護者の立場にはないが、皆さんのお話を聞き、大変勉強になり、介護に対する心構えができた。介護される方の気持ちになって介護をすることが大切であり、そのためには介護者自身が気持ちに余裕をもたないといけない」ということを教えられた。」と、話しておられました。

「家族で頑張って介護をしている方々のお話には、感心してばかりだった。また、今の時代は介護の手助けをしてくれるいろいろなサービスがあり、大変有り難く感じている。」とは、泉沢の菊池キサさんのご感想です。発表していただいた四名の方々、並びにご参加いただいた多くの皆様に、改めて感謝申し上げます。

〈在宅介護支援センター〉

看護婦 泉川美智子

保健・医療・福祉の連携の中で 地域ケア連絡会議 始動

沢内村には高齢者福祉事業を行う社会福祉法人が三カ所あります。また、湯田町の清水苑、光寿苑にお世話になっている沢内の方もおります。

そこで、やすらぎ会の在宅介護支援センターが事務局となり各事業所の職員が、利用される個々人のニーズに合った適切なサービスを総合的に提供できるように検討し合う会議を設けました。それが、「地域ケア連絡会議」です。

事業者は異なっても、また複数のサービスを異なる事業所で利用している場合でも利用者、ご家族にご迷惑をおかけしないよう、この会議がその役割を果たすことが大切です。

介護保険下での高齢者福祉サ-

あつたかくておいしくて大満足

ぶなの園デイサービスいものこ会

紅葉の中、畑の収穫もそろそろ終わりに近づき朝晩肌寒くなつてくると、温かい食べ物に恋しくなりました。

ビスは、利用者がサービスを選ばし、私どもが援助するだけではありません。また、入院している方の退院後の課題、さらには病気になるための保健予防活動と、保健、医療、福祉の実践上での協力、連携が非常に大切になってきます。

この重要性を具体的に検討することも「地域ケア連絡会議」の大切な役割です。従って、構成員も沢内村（保健福祉課）、病院、各事業所の職員代表、民生委員、介護支援専門員となっております。

利用者、ご家族が各種サービスを的確に利用できるよう検討する、それが本会議の目的です。

〈在宅介護支援センター〉

所長 上野米子

くになりますね。

そこで、ぶなの園デイサービスセンターでは利用者と職員が一緒に調理して温かいものを食べようと計画し、一〇月二五日にいものこ会を行いました。

当日は利用者七名と職員五名で役割分担をし、調理開始。いものこのむき方にもそれぞれの家庭のやり方があり、利用者の方の包丁さばきに危なさを感じることなく、着々とボールの中にもいものこがおさまっていききました。一方、大根と人参は思わず目を覆いたくなるような場面が何度か…。

その他の材料も「やあ、やってけろ」、「どりゃ」などという会話とともに、下準備がどんどん進んでいきました。

ホーム喫茶の調理場では、ここが職員の腕の見せどころとばかりに、大きな鍋を前にして首をかしげながら味付けをし、仕

上げに収穫したばかりのネギを入れてできあがり。

メニューはいものこ汁とやすらぎ農園で収穫したかぼちゃの煮物、ネギの炒め物、大根サラダと持参したおにぎり。

「うめなあ」「かぼちゃもうめっけど」と、大皿から他の利用者に取り分けてくれる方、一人で食べられるだろうかと思うほどの量をペロっと食べてしまう方など、いろいろでした。

「ごちそうさま、うめがった。またやるべなあ。」おなかも心も満たされた楽しいひとときでした。

〈ぶなの園デイサービス〉

生活相談員 泉川世理子



いものこの皮むきはまかせといて！

学んだことが 臨床現場では

ホームヘルパーをはじめ、社会福祉に関わる資格等を取得しようとする場合、施設や在宅サービス事業所での現場実習が必須となる場合が多くあります。

やすらぎ会でも、これまでさまざまな機関(団体等)から、各種サービスの実習の受け入れを実施してきました。

そこで、今年9月~11月に当法人で受け入れを行なった実習や研修についてのご報告と、実習者の中から、岩手県立大学3年次生の高橋真悟さんに寄せていただいた実習の感想等をご紹介します。

「実習受け入れ 九~十一月」

□東日本社会福祉専門学校

期間：一〇月一〇~一六日

人数：二名

内容：ホームヘルプ実習

□JAにしわが

ホームヘルパー二級研修

期間：一〇月二三~三一日

人数：四名

内容：デイサービス実習

ホームヘルプ実習

特養実習

□西和賀高校

ホームヘルパー二級研修

期間：十一月八~一五日

人数：一〇名

内容：デイサービス実習

ホームヘルプ実習

□岩手県立大学

ソーシャルワーク実習II

期間：十一月六~一七日

人数：一名

内容：支援センター実習ほか

『実際の業務実践の中で 学んだこと』

私が地元、沢内村の特別養護老人ホームぶなの園で行ったソーシャルワーク(社会福祉援助技術)実習は、授業の一環としての側面と、社会福祉士国家資格試験における受験資格取得の側面があります。そのため、実習においては将来的にソーシャル

ワーカー(社会福祉援助員)として専門的知識及び技術をもって、相談援助を行う際に必要な基本的技術を学習することになっています。

今回のソーシャルワーク実習では、ソーシャルワーカー業務の実践を中心に、在宅介護支援センター業務の把握、各種社会資源の把握など、普段ソーシャルワーカーが行う業務を見学や実践を通して学習することになっていました。そこで私が立てた実習の目的としては、①在宅介護支援センターの組織・機能の理解と業務内容の把握。②各種



岩手県立大学
社会福祉学部
高橋真悟さん
(太田出身)

社会資源・福祉サービスの理解と把握でした。

私は、「利用者が密度の濃い充実した福祉サービスを受けられるようにするためにはどうしたらよいか」ということを主な課題とし、二週間という短期間の中で相談員に同行したり、関係

機関での業務実践や組織・機能・事業内容などをお話していただき、プランニングやそれに伴う連絡調整の難しさを実際に感じ取ることができました。

また、実際に業務実践してみることに、社会福祉の仕事に肌で感じ取ることができ、そして、そこで働いていらっしゃる職員の方々の社会福祉に対する情熱や夢、また、実際についてもお聞きすることができました。社会福祉の仕事は情熱や夢だけではやっていけないということも私自身も十分承知してはいますが、現場の方からお話をいただくこと、実に現実的で、妙に説得力があり、これらのお話は今後の研究や進路の参考になりました。

この期間の中でソーシャルワーク実習のすべてを学習したとは思っていませんが、実習を通して学習したこと、また、課題や反省点を、これからの学習と来年の総合演習・実習で改善できるようにしたいと思います。



奉仕の心を育てたい

西和賀高校

窓拭きボランティア

十一月八日、西和賀高校の生徒の皆さんの手により、施設の窓をきれいに掃除していただきました。クラスボランティアの一環とのことですが、おかげさまで施設内が一層明るくなり、住民の皆さんも大変喜ばれております。

今回のボランティアの目的や参加者の感想などを、同伴された先生にお伺いしましたのでご紹介いたします。

本校では、生徒が思いやりの心と、周囲の人たちのために奉仕することの喜びを感じる心を育てることを目的に、毎年一人一回は何らかのボランティア体験をするという活動を実施しています。

今年度は、一年生が沢内村福祉共同作業所でのじゃがいも植え付けやイチゴジャム作り、



おかげさまで窓はピカピカ

西和賀高校教諭 深澤武志

二年A組が石川県金沢伏見高校と合同で福祉体験を行い、今回二年B組四名は「ぶなの園」での窓拭きボランティアを行いました。

参加した一人、高橋浩幸君は「ぶなの園は初めてで、建物が立派でびっくりした。外の窓拭きは風が強くて寒かったが、皆さんのお役に立ててうれしい。」と感想を述べていました。

今後も本校生として、地域に根ざした地道なボランティア体験を通して、地域の皆さんとのふれあいや集団、社会との関わりの中で自分を高め、社会に奉仕する心を育てていきたいと思っております。

ご意見箱を 設置しました

ぶなの園の玄関を入ってすぐの通路の机の上に「ご意見箱」を設置しました。

この「ご意見箱」は、やすらぎ会で実施している各種サービスが、地域の皆さんにとってより利用しやすく、より身近なものとなるためのかけはしです。

サービス内容や職員に対するご意見、ご不満などございましたら、

無記名で構いませんのでお寄せください。また、ご意見やご要望は、必ずしもご返信いたしませんので、ご理解をお願いします。



指導監査の ご報告

十一月六日、県及び北上地方振興局の指導監査がありました。

一、社会福祉法人やすらぎ会の運営について。二、職員との接遇について。三、特別養護老人ホーム住民に対しての介護、生活援助に関して。この三点につき、さまざまな書類を見ながらの指導監査でした。

法人関係では、理事の任期切れ等がないよう、やすらぎ会として理事会の自主的運営と活性化を望む。・理事会は回数も多く、内容についても良くやって

職員接遇では、住居、通勤手当の申請未提出や押印もれ等があり徹底すること。・扶養手当については「扶養」家族と証明し得る書類等を添付すること等の指導を受けました。

最後に特養住民に対する内容では、痴呆症の方への精神科医の定期的診察による指導、床ずれを作らない介護の努力等良い評価を受けましたが、住民個人への個別援助計画を、本人やご家族の意見もより反映させるよう指導を受けました。

これらを受け、下半期の計画と併せ、職員一同住民の皆さんのためより努力していきます。

施設長 上野米子

ホーム喫茶のご案内

【開 店 日】

1月19日 (金)

2月16日 (金)

3月16日 (金)

【ご利用時間】

14:00

～16:00

【場 所】

ぶなの園

地域交流スペース

お待ちしております！

編集後記

沢内の長い冬が始まりましたね。

毎年のように「沢内の雪も少ねぐなってきたなあ。昔だぼこったなもんでねがった。」という会話が聞こえてきますが、21世紀の沢内の冬はどうなるのでしょうか…。

20世紀から21世紀へと生きてきた重みははかり知れなく、お年寄りの方々に日々教えられる毎日です。これからも教わり、そして学び、支え合っていけたらと思っています。

〈やすらぎ会広報委員〉

高橋 渉 近藤富子 上中屋敷陽子

佐々木菜穂子 高橋宏明 高橋直美

感謝申し上げます

平成12年9月～11月

【ご寄付】

・刈田勇一様

・高橋トモ様

【ご寄贈】

・西和賀生活改善グループ様 (雑巾)

・平沢信之様 (生花)

・民生委員OB会様 (生花)

・岩手県菓種商協会中部支部女性部様 (タオル)

・沢内村婦人連絡協議会様 (タオル)

・大石信夫様 (鉢植え)

・南川幸一様 (生花)

・高橋喜生様 (介護用寝巻)

【ボランティア等】

・新町婦人会の皆様 (ホーム喫茶)

・高橋恵子様 (")

・太田若草会の皆様 (ホームバー)

・沢内村理容組合の皆様 (特養住民理容)

・長瀬野婦人会の皆様 (特養住民介助等)

・沢内村民生委員の皆様 (")

・平沢安保様 (")

・結っこの会の皆様 (")

・高齢者趣味の会の皆様 (縫い物)

・沢内第一小学校児童の皆様 (友愛訪問)

・西和賀高校生徒の皆様 (窓拭き)

・高橋正慶様 (ホワイトボード取付け)

在宅での介護のお悩みは

在宅介護支援センター にご相談ください

《電話番号》

85-2319 (支援センター直通)

85-2322 (土・日・祝日、夜間対応)

お気軽にどうぞ！